

エッセー 自然が育む力

子どもと遊ぶ「いつもの場所」がありますか？
いつも行く公園、いつも通る森の広場。いつもの場所での遊びや自然発見の積み重ねは、子どもにとって思い出として驚くほど色濃く残り、楽しい古里の情景を創り出すと考えています。

たかな？」と懐かしく感じたりします。
実際に美方高原で毎月行っている「森のようちえん」の子どもたちの様子を見ていても、毎回同じ小路を通って森に入っ



さまざまな自然を発見する子ども

「いつもの場所」探検へ

私も子どものころを思い出してみると、いつも遊んでいた広場に咲いていた花や、木の幹にいた虫、突然動き出したヘビ

から目を輝かせ、楽しんで遊ぶだけでなく、実に様々な発見をしてくれました。

のことも今でも覚えており、その広場の近くを通るたびに「あの花は咲い

たかな？」と懐かしく感じたりします。
実際に美方高原で毎月行っている「森のようちえん」の子どもたちの様子を見ていても、毎回同じ小路を通って森に入っ

間たつぷりかかり、その中で素晴らしい表情を見せた「葉っぱの色が変えてくれます。一番喜ぶのは「いつもの場所」での「いつもじゃない出来事」。今月なら「あつ、でっかいキノコが出て

しかしいつもと違う場所に連れて行くと、この子どもたちの様子が変わってしまつから不思議です。遊ぶ速度が違つというのか、木に触ることでも少しこわごと手を出します。子どもにとって新しい所は、ワクワクドキドキする場所であつて

も、同時にストレスを感じる場所なのかもしれません。
大人はとかく週末ごとに新しい公園や遊具、大型店舗にある遊び場に連れて行きたくなつてしましますが、この大人のワクワク感じるものと、子どもがワクワク感じるスピードは違つことを忘れずに。
この週末はあえて一緒に「いつもの場所」を探検に行きませんか。子どもと同じペースで歩けば、きっと面白い発見がたくさんあります。子どもの笑顔の向こうに見えるのは、未来と古里の両方なのかもしれません。
(尼崎市立美方高原自然の家所長 田中誉人)